



2022年度「イチケン 安全衛生大会」が東京・関西・九州・札幌で開催され新聞に掲載されました。

6月17日(金) 東京支店

より一層の取り組みを

イチケン東京支店と東京一栄会安全衛生部会は17日、東京都港区の東京都立産業貿易センター浜松町館で2022年安全衛生大会を開いた。写真。同社社員や協力会社の関係者ら約350人が出席し、安全への決意を新たにしました。

冒頭、長谷川博之社長は「災害撲滅に向け一層の取り組みをお願いしたい。当社の安全衛生基本方針が安全第一の理念が原点であることを再認識し、それぞれ



の仕事を臨んでほしい」とあいさつした。東京一栄会の大谷貴男会長は「安全のためにできることを考え、活発に活動していく。大会を通して、全員で共通の目標を持って進んでいきたい」と述べた。

大会では来賓の大國尚士三田労働基準監督署副署長のあいさつや安全表彰も行った。

建設工業新聞 6月24日

建設通信新聞 6月24日

災害撲滅へ一層取組

イチケン東京支店と東京一栄会は、東京都港区の都立産業貿易センター浜松町館で2022年度安全衛生大会を開いた。

長谷川博之社長は「開始前に作業手順をしっかり決め、リスクアセスメントに基づいた危険予知活動を行い、全員が重要な危険ポイントと対策を認識して作業に当たってほしい。災害撲滅に向けた一層の取り組みをお願いする」とあいさつした。写真。



その後、東京支店の安全衛生管理計画の説明、安全表彰、建設キヤリアップシステム表彰などを実施した。(6・17)

6月9日(木) 関西支店

取り組み全員で推進

イチケン関西支店と一栄会安全衛生部会は9日、大阪市北区のホテル阪急インターナショナルで2022年安全衛生大会を開いた。写真。同社社員や協力会社の関係者ら約250人が出席し、安全への決意を新たにしました。

冒頭、あいさつで長谷川博之社長は「労働災害はいつ自分の身に起こるかわからない。安全衛生への取り組みを一度見つめ直し、無事故無災害への着実な取り組みを全員で推進してほしい」と呼び掛けた。



一栄会の北野孝幸会長は「労働災害防止を通じ、安全衛生になお一層努力することが重要だ」と述べた。

続いて、大阪中央労働基準監督署の丸山龍太郎労働衛生専門官が来賓としてあいさつ。湯ノ口智治取締役常務執行役員技術本部長は22年度安全衛生目標、政清弘晃執行役員関西支店長は関西支店の安全衛生管理計画を説明した。

0人が参加し、労働災害撲滅に向けて決意を新たにしました。同社の長谷川博之社長は「コロナに加え、熱中症の恐れもある季節となった。労働災害はいつ自分の身に起こるか分からない。安全への取り組みを全員で推進してほしい」と呼び掛けた。

建設工業新聞 6月13日

建設通信新聞 6月13日

全員で取り組み推進

イチケン関西支店と同社協会の一栄会は、大阪市のホテル阪急インターナショナルで2022年関西支店安全衛生大会を開いた。写真。同社社員や協力会社員ら250



一栄会の北野孝幸会長は「いかなる環境下でも安全が最重要だ。安全は労働者の権利でもある。労働災害は未然に防ぐことが安全につながる。あいさつした。来賓の丸山龍太郎大阪中央労働基準監督署労働衛生専門官によるあいさつ。湯ノ口智治取締役常務執行役員技術本部長による21年の災害状況と22年の安全衛生スローガン「目標の説明、政清弘晃執行役員関西支店長による同支店安全衛生管理計画の説明、安全表彰、安全の誓いなどがあつた。(6・9)

6月8日(水) 九州支店

安全への決意新たに

イチケン九州支店と九州一栄会安全衛生部会は8日、福岡市中央区の市立中央市民センターで2022年安全衛生大会を開き、写真。一確かな手順で、取り組む危険予知「目指せゼロ災害」のスローガンの下、安全への決意を新たにしました。

同会の井口明成会長は「Q C D S E (品質・コスト・納期・安全・環境)を達成するために、ほつれんぞう(報告、連絡、相談)の徹底」と呼び掛けた。



湯ノ口智治常務執行役員が公衆災害ゼロなどの安全衛生目標を、濱野明執行役員支店長が5項目の重点施策など九州支店安全衛生管理計画をそれぞれ発表した。

冒頭、あいさつした長谷川博之社長は同社スローガンの趣旨を「作業開始前に作業手順をしっかり決めて、リスクアセスメントに基づいた危険予知活動を行い、全員が重要な危険ポイントと対策を認識して作業に当たってほしい」と説明し、災害撲滅に向けたより一層の取り組みを求めた。井口会長は「熱中症とコロナ対策はこれからも続くが、自分の体は自分で守るといふ思いで、この暑い夏を乗り越えよう」と呼び掛けた。

この後、福岡中央労働基準監督署の中村好一安全衛生課長労働基準監督官が来賓あいさつした。(6・8)

建設工業新聞 6月10日

建設通信新聞 6月10日

危険予知でゼロ災害

イチケン九州支店と九州一栄会(井口明成会長)は、福岡市の福岡市民センターで2022年安全衛生大会を開いた。写真。同社社員や協力会社員ら250人が参加し、労働災害撲滅に向けて決意を新たにしました。



冒頭、あいさつした長谷川博之社長は「コロナに加え、熱中症の恐れもある季節となった。労働災害はいつ自分の身に起こるか分からない。安全への取り組みを全員で推進してほしい」と呼び掛けた。

6月14日(火) 札幌支店

全員で無事故 無災害の達成を

イチケン札幌支店と札幌一栄会安全衛生部会は14日、札幌市中央区のニユーオーティン札幌で2022年安全衛生大会を開いた。写真。同社社員や協力会社の関係者ら約100人が出席し、無事故無災害の達成へ決意を新たにしました。

冒頭、あいさつした長谷川博之社長は「労働災害はいつ自分の身に起こるかわからない。安全衛生への取り組みを一度見つめ直し、無事故無災害への着実な取り組みを全員で推進してほしい」と要請した。



札幌一栄会の田中辰雄会長は「現場に携わるすべての人が事故は絶対に起こさないという強い決意の下、危険や災害のない職場を目指そう」と呼び掛けた。

大会では麓尚行札幌中央労働基準監督署副署長の来賓あいさつに続き、湯ノ口智治取締役常務執行役員技術本部長が22年度安全衛生目標、豊島昭義執行役員札幌支店長が札幌支店安全衛生管理計画をそれぞれ説明し、災害防止への意識高揚を図った。

この後、札幌中央労働基準監督署の中村好一安全衛生課長労働基準監督官が来賓あいさつした。(6・8)

建設工業新聞 6月16日

建設通信新聞 6月16日